

2018年6月

船井情報科学振興財団 奨学生報告書

Northwestern University, Department of Economics

村上愛

早いもので1年目も終わりを迎えようとしています。経済学の Ph.D. コースでは1年生はもっぱら授業を受講するのが中心となります。しかし、研究を進める機会がないわけではりません。数か月前のことになりますが、大学内のセミナーで現在研究中の論文を発表する機会を得ました。今回は、私の研究分野と Northwestern 大学の研究環境についてセミナー発表を中心にご報告したいと思います。

現在私が取り組んでいる研究分野はマッチングと呼ばれる分野です。ノーベル経済学賞を受賞した現 Standord Universtiy の Alvin Roth 教授らが発展させた理論で、現実の経済制度への応用も積極的に行われています。マッチングと呼ばれる所以は、金銭取引が不可能な状況で、いかにして人や物を効率的に分配し、マッチさせるか、という問いを分析する理論だからです。例えば、大学で新しい建物が建設されたとします。各部屋をどの学生や教授に割り当てるか、という問題が発生します。年功序列で勤続年数の長い先生から好きな部屋を選ぶ方法もありますし、くじ引きで決めてしまうというやり方もあり得ます。あるいは、担当者が一人で全員の部屋の位置を決めてしまうかもしれません。いずれのやり方にせよ、市場での取引のようにお金を出して部屋を売り買いする、という手段がとられることはありません。そこで、どのような仕組みならより多くの人々が納得できるかたちで部屋を分配できるか、人と部屋をマッチするアルゴリズムを理論的に研究することになります。もちろん、マッチングの理論はオフィスの分配以外にも幅広く適用することができます。学生と学校をマッチさせる入試制度の分析や学校選択制度の問題、研修医と病院のマッチングなど、応用範囲は広いです。経済学はお金に関する問題を扱うと考えられがちですが、マッチングの分野では、このようにお金の介在しない状況で、いかにできるだけ多くの人々が納得できる方法で物を分配するか、ということの研究をしています。

研究発表を行うことは3月に決まり、発表日は4月19日となりました。1時間のプレゼンテーションによる発表でした。英語での研究発表は既に経験はありましたが、アメリカで論文を発表するのは初めてです。スライドは既に出来上がっていましたが、問題は発表原稿です。ネイティブスピーカーではないため、正しく発音に通じるか不安でした。幸い、本大学では Linguistic Department の教員や学生による無料の個別英会話指導を受けることが可能です。1回25分から40分の個別指導に週2回通い、全文を印刷した発表原稿の前に、本番通り発声練習を行いました。1単語ずつ口の開き方から舌の位置にいたるまで丁寧にコメントをいただき、プレゼンテーションで効果的に内容を伝えられるようにスピードやイントネーションのつけ方も指導を受けました。

莫大な量の宿題と授業に追われている1年生が研究発表を行うことは珍しいため、セミ

ナーの予定が公表されると、事前に激励のメールをくださる先生もいました。また、1年生の間は指導教員がつかないものの、アポイントメントをとって訪れた Bruno 教授は、発表の構成と時間配分について丁寧に 1 時間以上コメントをくださいました。学生の研究活動に対する先生方の熱意を感じ、それだけで勇気づけられる思いがしました。

セミナー当日は、クラスメートをはじめ、多くの学生と教員が聴講してくださいました。リラックスした雰囲気の中、様々な質疑応答もあり、1 時間の制限時間内に予定通り発表を終えることができました。セミナー終了後、参加してくださっていた教員の方々から多くの賛辞とコメントをいただき、建設的なアドバイスを受けることができました。

また、研究発表後、セミナーに参加していた Marciano 教授から後日研究の詳細を話そうという提案を受けました。個別面談では、プレゼンテーションでは触れることのできなかつた細かい定理の証明方針などを説明し、さらに、関連した新しい論文がどのように今後書けるだろうか、といった非常に前向きな議論をかわすことができました。

経済学部 1 年生というのは目前に迫る課題の期限に追われがちですが、本来の留学目的である研究活動においても充実した 1 年目にすることができたと思います。セミナーでいただいたコメントをもとに、最後の仕上げを行い、この夏にはジャーナルに投稿することを目標にしています。